

令和6年度広島県教育賞受賞者

○個人

区分	氏 名	所属及び職名 (所在地)	功 績 等
学 校 教 育	やま だ こう じ 山 田 幸 治	呉市立広南小学校 校長 (呉市)	「心の元気を育てる道徳教育推進リーダー養成事業」を企画し、各市町の道徳教育推進リーダーの養成、小・中学校における道徳教育の充実に努めた。 令和5年度から「道徳教育推進拠点地域事業」の指定校の校長として、「Society5.0を生きる資質・能力の育成～主体的に考え、議論し、自己の生き方を考える道徳科の授業づくりを通して～」を主題として研究に取り組むとともに、各教科等を通じた道徳教育を推進し、成果を上げた。 令和5年度には、広島県連合小学校長会副会長、令和6年度には広島県連合小学校長会会長を務め、校長として卓越したリーダーシップを発揮し、適切な指導・助言を行い、県内小学校長の資質向上に貢献した。また、豊富な見識と実践を生かし、県全体の小学校教育の充実と発展に大きく寄与した。
	た まる まこと 田 丸 誠	福山市立東中学校 校長 (福山市)	平成29年度から2年間、国立教育政策研究所から「教育課程研究指定校事業（論理的思考）」の研究指定を受け、社会の中で活用される論理的思考やそれらを表現する力を学校全体で育成するための教育編成や指導方法等の工夫改善に関する実践研究に取り組んだ。 令和5年度において、「英語で教室から世界とつながる」プラットフォーム事業」の指定校の校長として、海外校との交流を位置付けた「話すこと」の言語活動を中心とした授業を実践するなど、生徒が外国人等と英語を使って主体的にコミュニケーションを図る態度の育成に取り組み、実践の成果を県全体へ広めるなど、英語の授業づくりの推進に貢献した。 また、令和5年度からは福山市中学校長会会長を務め、長年の行政経験を生かしながら適切な指導・助言を行い、市内中学校長の資質向上を図り、福山市の中学校教育の充実・発展に尽力した。

区分	氏 名	所属及び職名 (所在地)	功 績 等
学 校 教 育	よし もち かず ひろ 吉 用 和 弘	尾道市立高西中学校 校長 (尾道市)	令和3年度から2年間「道德教育推進拠点地域事業」の指定校の校長として、考えを深める対話的な学び、行事と道德科をつなぐカリキュラム・マネジメント、コミュニティスクールの仕組みを生かした道德教育の推進を行い、成果を上げた。 令和5年度には「特別支援教育の考え方を生かした個別最適な学び推進プロジェクト」の指定校の校長として、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指して自由進度学習に組織的に取り組み、学校全体で授業改善を推進し、その研究成果を県内外に広く発信した。 また、令和6年度には尾道市中学校長会会長を務め、校長として卓越したリーダーシップ発揮し、適切な指導・助言を行い、市内中学校長の資質向上を図り、尾道市の中学校教育の充実・発展に尽力した。
	やなぎ とも こ 柳 智 子	広島市立舟入高等学校 校長 (広島市)	令和2年度広島市立舟入高等学校校長に就任以来、広島市ハイスクールビジョン推進プログラムに基づき、学校改革を着実に進めている。令和4年度以降は、広島市立学校研究指定校として、舟入高等学校の歴史から被爆の実相を学び、グローバルな視点から平和を自分ごととして捉え、自分の言葉で世界に平和を語れる人材育成に継続的に取り組み、他県の高等学校と連携した平和教育を行うなど、特色ある教育内容の充実を図っている。 また、総合的な探究の時間を中心に授業改善を行い、主体的に学び、自ら「問い」を見出し、課題解決を通じて新たな価値を創造する力を持った生徒の育成に取り組んでいる。 令和5年度全国高等学校長協会都市立部会会長として、全国の高等学校教育の振興発展に寄与した。
	よし むら かおる 吉 村 薫	広島県立広島皆実高等学校 校長 (広島市)	広島中・高等学校、尾道東高等学校、広島工業高等学校の校長を歴任しており、「学びの変革」の推進に尽力している。 広島中・高等学校では、SGH（スーパーグローバルハイスクール）研究指定校として、グローバル・リーダーの育成に向けたカリキュラム開発及び教育活動を推進した。 尾道東高等学校では、海外交流に力を入れ、国際教養コースの特色づくりを行い、英語教育の拠点校として牽引役を果たした。 広島工業高等学校では、広島県地方産業教育審議会委員として答申の策定に関わり、専門学科の知見を生かした産業教育の推進に貢献した。 広島皆実高等学校では、トリプル100（国公立大学現役合格者100名、看護師国家試験合格率100%、全国大会出場者100名）を目標に、3学科が互いに高めあいながら、進路実現に向けて尽力している。

区分	氏 名	所属及び職名 (所在地)	功 績 等
社会 教 育	なか じま けい こ 中 島 桂 子	一般社団法人 ガールスカウト広島県連盟 事務局長 (広島市)	指導者及びトレーナーとして、メンバーや指導者への指導・支援を行い、県内のガールスカウト活動の活性化に寄与した。研修に積極的に参加し指導者として研鑽を積むとともに、若い世代が豊かな経験を積むことができるよう実体験に基づく指導や情報発信を行った。 各県の活動状況等の情報収集を行い、県内各団に展開することで組織間の綿密な連携を図り、組織体制の強化に寄与した。 平成23年以降、連盟長として、日本連盟が主催する日韓交流事業の受入れを進め、国境を超えた青少年交流という貴重な機会を創出し、青少年健全育成に貢献した。 平和祈念式典でのボランティア活動やフラワーフェスティバルオープンセレモニーでの平和宣言等、地域社会との連携及び地域のニーズに応じた様々なボランティア活動を推進し、社会貢献に努めた。
	ひら の こう いち 平 野 宏 一	ボーイスカウト広島県連盟 理事 (呉市)	昭和59年に呉第15団カブ隊の副長に就任して以降、各隊の隊長や団委員長、呉地区委員会組織拡張副委員長を務め、呉地区におけるボーイスカウト活動の活性化に貢献した。 平成16年に県連盟学識経験者理事及び県連盟組織拡充委員長に就任し、県内スカウトの増員を図った。 平成26年から環境安全委員長（現：「セーム・フロム・ハーム」安全委員長）として、県内のスカウトや指導者対象の救急法講習会や安全教育、指導者研修を実施し、指導者の育成及びスカウト活動の事故防止・安全確保に寄与している。 呉市の海上保安大学校と連携し、ボーイスカウトの技能章（沿岸視察章、水泳章等）実技講習会を毎年開催している。講習会を通し、多くのスカウトが技能章を取得しており、指導者の資質向上及びスカウト教育の充実に大きく貢献している。
地域 文 化	ふじ い ふみ こ 藤 井 文 子	福山シティオペラ 代表 (福山市)	平成6年に福山シティオペラ、平成29年に日本シャンソン協会福山支部の立ち上げに携わるとともに、団体代表として、福山市内を中心に多数のコンサートを企画・開催しており、音楽活動を通して、オペラやシャンソンの魅力を発信し、地域文化の振興に寄与している。 平成8年から現在まで、毎月無償で「福山ニューキャッスルホテル ロビーコンサート」を開催しており、市民のみならず市外からの観光客が気軽に音楽を楽しみ親しむ機会を提供している。その開催回数は令和6年9月末時点で623回にのぼる。 音楽団体や小・中・高等学校等の様々な場において継続的に子供からお年寄りまで幅広い世代を対象に歌の指導を精力的に行っており、後進の育成に尽力している。

区分	氏 名	所属及び職名 (所在地)	功 績 等
地 域 文 化	もん でん とおる 門 田 亭	府中市 文化財保護審議委員会 委員長 (府中市)	府中市文化財保護審議委員会委員として、35年にわたり市の文化財保護に対して指導助言を行うとともに、地域の文化活動に貢献している。 備後国府跡の国史跡指定に当たっては、地元住民として住民と行政の橋渡し役を果たし、指定後の計画策定においても住民の意見を吸い上げ、史跡公園整備に尽力した。 近年では、旧芦品郡役所庁舎や翁座、恋しきなどの近代文化財建造物の保存活用に関する委員会の委員を務め、文化財建造物の活用に大きく貢献している。 昭和58年に「福山蝶類同好会」（現在は「びんご昆虫談話会」に改称）を立ち上げて研究活動を継続しており、昆虫に関する一般向けのセミナーで講師を務めるほか、著作活動にも精力的に取り組んでいる。

個人 9 名
(並びは区分(校種)別、氏名等(五十音順))

令和6年度広島県教育奨励賞受賞者

○個人

区分	氏 名	所属及び職名 (所在地)	功 績 等
学 校 教 育	きの した けい すけ 木 下 恵 介	福山市立新涯小学校 教諭 (福山市)	「分析データを活用した授業改善」のパイロット校として、学力調査の結果を活用し、授業改善サイクルの確立を推進している。 また、学力調査の分析結果を用いて課題意識を整理し、全校で取り組むための仮説の焦点化と内容の具体化に向けた研究の推進を行った。 単元構想シートを用いた授業で児童が自分なりの言葉で考えを表現する機会を増やし、ICTを活用して授業や教材研究を共有する環境を整備した。 令和3年度には大学院派遣研修を受講し、「学習者の自己変容を促す文学の読み」をテーマに国語科文学の研究・実践を行った。 これらの成果や課題を同校や全国小学校国語教育研究大会で公開し、市内外の国語科教育の推進に寄与した。
	こう の ひろ のり 河 野 紘 範	熊野町立熊野第四小学校 教諭 (熊野町)	令和元年度に県立教育センター長期研修、令和4年度にはエキスパート研修を受講し、体育科の専門性と授業実践力を向上させた。 体育科の授業において、「共生の視点」を基に運動が得意な児童も苦手な児童も楽しめる授業づくりや、児童相互の関わり合いを意図的に取り入れ、単元モデルを開発して授業を効果的に配列した。これにより、児童が主体的に学べる環境を整え、体育好きな児童の割合を90%以上にする目標を令和2年度から継続的に達成させている。 さらに、令和2年度から3年間研究主任を務め、学校全体の授業力向上に貢献した。令和6年度の広島県小学校体育研究大会では研究発表を行い、研究成果を県内の教職員へ普及させた。これにより若手職員の模範となり、人材育成と学校の教育力向上につながっている。

区分	氏 名	所属及び職名 (所在地)	功 績 等
学 校 教 育	しげ 重 みつ 光 やす 泰 のり 徳	尾道市立土堂小学校 教諭 (尾道市)	学校評価を軸に学校教育目標達成に向けた計画を策定し、評価・改善を行いながら組織力の向上を図った。その結果、「学校における働き方改革」アンケートでは全教職員が学校教育目標の達成に向けた取組に肯定的な回答をしている。 また、小学校教科担任制推進教員として、授業改善を目的とした教科担任制ブロック会議を計画的に実施し、成果や課題を共有した。 さらに「授業参観週間」を設定し、互いの授業を見合う機会を設けることで、学校全体の教育の質の向上に貢献し、全国学力・学習状況調査で全国平均を大きく上回る成果を上げた。 小学校教科担任制推進協議会では、自校の取組状況を積極的に発信し、他校の優れた取組を校内で還元して充実に生かしている。
	なか 中 の 野 めぐみ 愛	竹原市立竹原西小学校 教諭 (竹原市)	平成 30 年度から「小学校外国語パワーアップ事業」のリーダーとして実践と活動を重ね、令和 3 年度からは竹原中学校区内の 4 小学校を兼務して外国語指導に尽力した。 また、市内研修会や他市からの視察で先進的な授業を公開し、その指導力が高く評価された。 令和 5 年度には読書活動と関連させた外国語活動を広島県学校図書館研究大会で提案し、外国語活動の可能性を広げるとともに、参加者に読書活動の有用性を実感させた。 日々の授業では場面設定や内容の工夫を行い、「書く」「話す」など表現活動に重点を置いた指導を実施した結果、児童の意欲が高まり、竹原市内及び広島県全体の外国語教育導入期に大きく寄与した。
	なん 難 ば 波 かおり 香	三次市立和田小学校 教諭 (三次市)	令和 2 年度から研究主任として校内研究を推進し、教職員の授業力向上のための指導・助言を行っている。 令和 3 年度には県立教育センター教員長期研修を受講し、「問題を設定する力を育成する理科指導の工夫」をテーマに研究を進め、令和 4 年度には広島県小学校理科教育研究大会で見方・考え方を働かせた授業づくりを進める中心的役割を担った。 これにより、児童が主体的に問題を解決する力が育成され、教職員の授業力も向上した。 令和 5 年度には全国小学校理科研究協議会で実践発表を行い、児童の具体的な姿や変容を全国に発信した。 令和 6 年度には、理科における個別最適な学びについて、中学校区公開研究会で授業提案を行うとともに、先進的な取組として全国の理科教育推進者に対して提案を行うなど、理科教育の充実に大きく貢献した。

区分	氏 名	所属及び職名 (所在地)	功 績 等
学 校 教 育	はな の ゆ か り 花 野 由香里	坂町立坂小学校 教諭 (坂町)	令和4年度に県立教育センター教員長期研修を受講し、ICTを活用して児童の思考過程を可視化する研究を行い、その成果を所属校や坂町内で「筋道を立てて考え、表現する力」の育成に尽力した。 また、令和5年度からは研究主任として「授業研究を協働的に推進するための組織づくり」を研究推進計画に位置付けて実践・普及に取り組んだ結果、他の職員も積極的にICTを活用した授業を行い、授業力の向上につながった。 令和5年度には、第2回坂町ICT教育フォーラムで「思考過程を整理するためのICT活用」について実践報告し、第5回安芸郡小学校教育研究会算数部会実践発表では、長期研修での学びを還元し、新たに他学年・他領域での実践を加えた発表を行い、町内外において算数教育の発展に貢献した。
	い い が き か ず よ し 飯 垣 和 義	東広島市立福富中学校 教諭 (東広島市)	令和3年度から3年間、「探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業」の研究推進リーダーとして活躍し、福富中学校・福富小学校で生活科・総合的な学習の時間の充実に係る取組を推進した。 「福富型協働的な学び」や単元の導入と終末で下学年に成果や課題を引き継ぐ単元構成、ループリックの開発等、地域を題材としたプロジェクト型学習の研究をリードした。これにより、教職員間の連携や子供同士の関わりが深まり、地元愛や愛校心が育まれた。 研究成果を研究推進プロジェクト通信で発信し、視点の共有化や校種を超えた教職員の協働を図り、実践に対する教職員の士気を鼓舞した。 また、教務主任や研究主任として学校の中核で教育活動に尽力し、理科の授業では生徒の課題意識を引き出す指導や自由進度学習の導入など、個別最適な学びの研究を推進している。
	か ん ど り ひ ろ ふ み 神 鳥 裕 史	三原市立宮浦中学校 教諭 (三原市)	令和3年度から県教育委員会の「キャリア教育の充実を中核としたカリキュラム開発事業」の指定の研究推進リーダーとして中学校区で地域・企業との協働的・探究的な学習に向けたカリキュラムの開発と実践の取組を推進した。 校区で育成したい資質・能力を共有し、系統表とループリックを作成することで、各教科と総合的な学習の時間において資質・能力の育成を意識した授業を展開した。 地域の人材を活用した出前授業、職場訪問、面接体験、地元企業との商品開発やイベント開発を行い、社会に開かれた教育活動を推進した。 この取組の結果、児童・生徒の自己実現力や自己肯定感の高まりが見られ、各教科の授業で資質・能力の育成を意識した授業を行う教員の割合の向上に貢献した。

区分	氏 名	所属及び職名 (所在地)	功 績 等
学 校 教 育	なか はら ゆ き 中 原 有 紀	安芸高田市立八千代中学校 教諭 (安芸高田市)	学校教育目標の具現化と学校文化づくりに尽力し、令和３年度から生徒指導主事として諸課題に組織的に取り組むなど、教科指導と生徒指導の一体化を目指した授業づくりを実践している。 また、若手教員への積極的なアドバイスを通じて全教職員を牽引し、学校風土の改善に貢献した。 「自己存在感の感受を促進する授業」「共感的な人間関係を育成する授業」「自己決定の場を提供する授業」「安全・安心な「居場所づくり」に配慮した授業」の実践に取り組み、その成果を全職員に還元することで、主体的な学びの創造に貢献した。令和４年度には広島県造形教育研究大会で授業公開を行い、自らの実践を県内に広く普及した。 学級経営においては、不登校生徒など配慮を要する生徒に寄り添い、安心・安全な居場所としての学級づくりを行っている。
	み のみ こう へい 味 吞 耕 平	福山市立新市中央中学校 教諭 (福山市)	「キャリア教育の充実を中核としたカリキュラム開発事業」の指定を受け、キャリア教育推進リーダーとして、校区のキャリア教育の改善と発展に努めた。 学校行事や授業で生徒が自己の成長を振り返ることができるよう、キャリア形成に関わる各記録を統一化するため、キャリア・パスポートを作成し、その活用について、校内や校区の研修等で助言を行った。キャリア・パスポートを活用することにより、生徒・教員・保護者が一緒に生徒の成長や変化を捉え、今後の展望について考えることができるようになった。 また、「キャリア教育実践の手引き」を作成し、県教育委員会のホームページで公開することで、広島県のキャリア教育の推進に寄与した。
	よし だ ゆう すけ 吉 田 祐 介	三次市立八次中学校 教諭 (三次市)	令和４年度には、「中学校英語における ICT を活用した言語活動充実プロジェクト」研究校の実務担当者として、ICT を効果的に活用した英語授業の指導方法を研究した。三次市の全校対象の教職員研修で提案授業を行い、研究成果を普及した。 八次中学校では、「不登校 SSR(スペシャル・サポート・ルーム)推進校」の推進教員（教育相談コーディネータ）として、安心して学習できる環境づくりに努めた。校内での不登校支援会議の機能化や ICT を活用した多様な学びの支援により、不登校生徒の出席状況の改善が進んでいる。また、長期欠席者や新たな不登校生徒の減少が見られた。 その成果を県教育委員会主催の「マナビノラボ」で発信し、オンラインによる学習プログラムで生徒の様子を伝えるなど、県内の不登校未然防止および不登校生徒の社会的自立に向けたリーダー校として大きく貢献している。

区分	氏 名	所属及び職名 (所在地)	功 績 等
学 校 教 育	まる かわ しん いち 丸 川 晋 一	広島県立広高等学校 教諭 (呉市)	西条農業高等学校においては、令和3年度から令和5年度までSSH（スーパーサイエンスハイスクール）の事業推進担当者を務め、カリキュラムの開発や充実、広島市立大学および広島県立大学との高大接続において、中心的な役割を担った。 令和4年度には、高等学校教員のための指導力向上セミナー（広島大学教育学部主催）において、「学際的な学びに重点化したカリキュラム改革と教師の専門性の開発」をテーマとし、実践提案を行った。 教材生物・教具研究会の代表として、また県立教育センターにおいて指導主事を務めた際にも、教材生物バザールへ積極的に参加した。さらに、平成23年、平成24年及び平成29年には、広島県科学オリンピック等協力教員を担うなど、広島県の理数教育の充実に尽力した。
	みつ はし まさ こ 光 橋 昌 子	広島県立黒瀬高等学校 教諭 (東広島市)	県内高等学校で唯一の介護福祉士養成を担う福祉系高校である所属校の福祉科の中核を担う教諭として日々研鑽に努め、生徒と真摯に向き合っている。 令和5年度には、福祉科生徒の介護福祉士の国家試験合格率100%を達成するなど、生徒の介護技術の向上に貢献している。 指導している生徒が、令和6年度全国福祉高等学校校長会主催第28回生徒体験発表会において、最優秀賞・文部科学大臣賞を受賞した。 広島県教育研究会福祉部会では、平成31年度から令和4年度までの4年間事務局長を務めるとともに、広島県高校生介護技術コンテストでは平成30年から7年間にわたり、運営・指導に携わるなど、所属校だけでなく県内高等学校で福祉を学ぶ生徒に対する指導に尽力するなど、福祉科教員の指導力向上に精力的に取り組んでいる。
	てら ぐち さやか 寺 口 さやか	広島県立 広島中央特別支援学校 教諭 (広島市)	採用時から現在に至るまで、視覚障害を対象とした特別支援学校で勤務をしており、視覚障害のある生徒、とりわけ理療科における指導において造詣が深い。 理療科における国家試験受験者の合格が令和5年度まで5年連続100%という結果を出している。視覚障害のある生徒に分かりやすい授業となるよう、手作りの教材の作成に力を注いでおり、また、大学とも連携し、教材作成に貢献している。 とりわけ、理療科において必要な人体構造が分かるような人体解剖模型を、触れて分かるように工夫して作成するなど、視覚障害に係る専門性を生かした取組により学校全体の教育活動全体に大きく貢献している。

区分	氏 名	所属及び職名 (所在地)	功 績 等
学 校 教 育	よし だ ゆう こ 吉 田 優 子	広島県立 広島南特別支援学校 教諭 (広島市)	聴覚障害を対象とした特別支援学校で勤務するとともに、教育委員会事務局において聴覚障害担当の指導主事を務めるなど、聴覚障害のある幼児児童生徒の教育について造詣が深い。 聴覚障害教育の専門性が高く、聴覚障害教育を行う特別支援学校において、特別支援教育コーディネーター（教育相談主任）として、乳幼児教育相談等を担当するとともに、地域の乳幼児、児童生徒の教育に関する相談・助言を行っており、その的確かつ丁寧な対応は評価が高い。 聴力検査、補聴効果の測定、教研式読書力診断検査、コミュニケーションの状況等、聴覚障害教育に必要な実態把握の実施スキルを有しており、他の模範となる実践を行っている。 小学校の通常の学級での指導経験もあり、聴覚障害のある児童一人一人の反応やつまづきを予想した授業づくりについて高い専門性を有するとともに、学校全体の授業改善の中心として、教育活動の充実に大きく貢献している。
社 会 教 育	かど やま あい 角 山 愛	一般社団法人 ガールスカウト広島県連盟 教育担当理事 (広島市)	平成 25 年に 트레이ナー 資格を取得して以降、これまでに 20 名以上のリーダーの輩出に尽力した。中・高校生の指導を主として行い、次世代のガールスカウトを担う後進育成に寄与するとともに、ガールスカウト広島県連盟における指導者養成の責任者である指導者委員長を務め、県内のガールスカウト活動の発展に貢献している。 さらに、日本連盟主催の日韓交流事業の企画・運営に携わり、活動を通して日本と韓国の文化への理解を深める学びの機会を創出した。また、日本連盟主催の中高生を対象とした全国 7 地区シニア部門事業の実行委員長を務め、事業の企画・実施を主導した。 現場の声に耳を傾け、支援が必要な団に自ら出向いて指導する等、第一線での活動・支援を継続して行っている。
体 育 ・ ス ポ ー ツ	わた なべ つよ し 渡 部 剛 史	広島翔洋高等学校 教諭 (坂町)	自身も競技者として顕著な成績を残すだけでなく、平成 13 年に広島安芸女子大学高等学校（現：広島翔洋高等学校）ソフトテニス部の監督に就任以後、学校生活を通じ日常的に人間性の向上を含めて部員の指導に尽力した。 全国高校総体では、個人戦・団体戦あわせて 6 度の優勝、全日本高等学校選抜大会では 4 度の優勝へ導いた。 令和 5 年度には、公益財団法人広島県スポーツ協会スポーツ賞において、優秀指導者として賞を受賞した。 令和 6 年 9 月 4 日～9 日に韓国・安城市で開催された第 17 回世界ソフトテニス選手権大会では、日本代表選手として、在校生が出場し、日本女子チームの国別対抗団体戦での銀メダル獲得に貢献した。指導者として、ソフトテニス競技の競技力向上、育成に多大な貢献をしている。

令和6年度広島県教育奨励賞受賞者

○団体

区分	団体名 (所在地)	功 績 等
学 校 教 育	府中町立府中中央小学校 校長 有崎 美紀 (府中町)	学校経営理念「学校は子どもが育つ土壌である」のもと、校長を中心にコミュニティ・スクールを核とした地域とともにある学校づくりを推進している。 教育課程の実施に当たっては、地域の人的・物的資源を活用したり、土日や長期休業を活用して地域行事との連携を図ったりしながら、目指すところを社会と共有・連携しながら実現させている。学校評価に係る保護者アンケートの「学校の教育方針や教育活動に満足していますか。」の項目においては、93%を超える肯定的評価を得ている。また、外部の力を積極的に活用することで、教職員が子供と向き合う時間を創出し、その時間を授業改善に活用することで、教員の授業力向上を図っている。 教育課程の質的向上に向けたこれらの取組を、令和5年度コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進「地域とともにある学校づくり 学校を核とした地域づくり」フォーラム等で実践発表するなど、当該校の取組を県内に広く発信しており、県内の学校における社会に開かれた教育課程の実現に寄与している。
	呉市立吉浦中学校 校長 河本 英希 (呉市)	令和元年度から不登校等児童生徒支援指定校の指定を受け、SSR(スペシャル・サポート・ルーム)の取組を県内でもいち早く開始し、全教職員が不登校等生徒に対する細やかな支援を継続している。 特に、不登校等生徒支援会議に管理職や主任、生徒指導主事、SC(スクールカウンセラー)、SSW(スクールソーシャルワーカー)だけでなく、各学年の教諭が交代制で参加することにより、情報共有と支援の徹底を図った。また、校区内の小学校教諭等による支援会議への参加や、生徒支援コーディネーターの小学校訪問、支援会議の開催、市福祉関係課等との合同会議等を通して、家庭環境や生育環境を把握するとともに、福祉面からの支援も行っている。 支援体制が充実してきた令和5年度は、前年度と比較すると、不登校生徒は6名減少し、特に新規の不登校生徒は1名のみとなっている。これらは、当該校における支援体制の確立はもとより、小学校、福祉との密な連携による成果と言える。 取組を発信、普及するため、公開研究会で取組を発表するとともに、他県の教育委員会等、多くの視察を受け入れ、他校の不登校等児童生徒支援の充実にも寄与している。

区分	団体名 (所在地)	功 績 等
	広島県立戸手高等学校 校長 たかむら 高村 せいご 聖悟 (福山市)	令和3年度から3年間、「高等学校課題発見・解決学習推進プロジェクト」に係る学科等の特色を生かしたカリキュラム開発研究指定校として、「産業社会と人間」、「総合的な探究の時間」、学校行事と進路LHR（ロングホームルーム）等に関連付けることにより、キャリア教育の視点でカリキュラム全体を見直し、改善を図った。 令和4年度からの2年間は、STEAM教育モデル校としての指定も受け、研究実践を行い、その成果の普及を行った。 令和6年度からは、STEAM型教育牽引校として、実社会の課題発見と解決に向けた地域探究に取り組み、STEAM教育の視点を取り入れた探究活動を通して、「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」の一層の充実を図っている。 令和5年度に学校図書館リニューアルを実施し、学校図書館をSTEAM教育推進に向けたプラットフォームとして機能させるとともに、校内随所に出張図書室（コーナー）を置き、生徒の探究心を育む場としている。 また、学校図書館を地域の人々との交流の場として活用し、地域に開かれた学校づくりの取組や、地域課題、地域貢献に関する学習成果を発信し、更に深め発展させる取組を行っている。
	広島県立広島特別支援学校 校長 おおもと 大元 みどり (広島市)	地域のニーズに応えるため、農場で育てた野菜を商品化し、近隣住民を対象にした野菜の訪問販売を展開している。また、地域の公民館と連携し、定期的な野菜の販売も行っている。これらの取組を通して、地域との連携が深まる等、地域に根付いた活動となっている。 また、農業を通して、他校種との交流及び共同学習を行っている。西条農業高等学校の生徒と共に土壌の調査を行ったり、広島市立倉掛小学校やインターナショナルスクールの児童への農作業指導をしている。児童生徒同士の学び合いを通して、豊かな人間性を育むとともに、お互いを尊重し合う大切さを学ぶ機会となる等、大きな意義を有している。 本取組は、校内での学習だけでは得られない学びであり、地域への興味・関心が高まるとともに、児童生徒の意欲を地域協働から地域貢献という高いレベルまで引き上げて日々進化させている。これらの協働的な学びを通して、生徒が自信や生きがいをもって自立と社会参加に向かうことができるように、より一層の充実に取り組んでいる。
社会教育	めんがめ倶楽部 会長 おかだ 岡田 しゅうじ 修司 (三次市)	平成18年から、レッドデータブック（環境省）に絶滅危惧ⅠＢ類として掲載されているブッポウソウの保護活動を行っている。巣箱作り、巣箱架設及び営巣状況の調査等の活動を継続的に実施した結果、三次市作木町が国内有数の営巣地となった。 三次市立作木小学校の「ふるさと学習」の授業で、当該団体の会員が講師を務めたり、鳥類研究者と連携して講座を開講したりするなど、ブッポウソウに関して学ぶ機会を提供するとともに、自然の素晴らしさやふるさとを大切に思う気持ちの醸成に貢献している。 市民農園における野菜収穫体験、地形の成り立ちを体感するフィールドワーク、川の生き物を観察する自然環境体験等、豊かな自然を生かした体験活動を数多く実施し、社会教育の振興に寄与している。 「三次こども市議会」での小学生の提案イベントを実現させるなど、外部からの意見を柔軟に取り入れ、充実した学びの機会の提供を積極的に行っている。

個人17名5団体
(並びは区分(校種)別、氏名等(五十音順))